



あと一步の向上に向けた取組

函館市立湯川中学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

本校の学力向上を目指した授業づくりのコンセプトは、基礎・基本の徹底した定着を図りながら、「学習の理解の深まり」「気づき・新たな発見」「協力・支え合い」「学習意欲」「コミュニケーション」を高めることにある。本年度は、大きな効果をもたらしてきたテスト前の放課後寺子屋学習や、夏休み・冬休みの放課後学習会、数学科におけるTTや習熟度別学習を重点事項として掲げ、各種調査等の結果を検証、指導方法の工夫・改善を図ることにより、『生きる力』に直結する、さらなる学力の向上を目指す。

2 取組の概要

- 到達目標（数値指標）を掲げ、各種調査等の結果を検証、指導方法の工夫・改善を図ることにより、『生きる力』に直結する学力の向上を目指す。
- 言語活動の充実や、学び合いによる表現力の向上に必要な事項を各教科の学習内容から精選し、指導に当たっては、小テストや繰り返し学習、他領域と横断的に関連付けた指導などを計画的に位置付けて指導を意図的・継続的に行う。
- 成績中位層から下位層生徒に対して、定期試験前の放課後学習サポートや必要に応じて習熟度別学習形態を用い、指導方法の工夫・改善を図ることにより、学力の向上を図る。
- 基礎・基本の定着を更に図る指導に当たっては、教師の指示の理解・確認、文章・資料等の読みとりや提示の仕方に工夫・改善を行い、不注意による誤りを防ぐ習慣を身に付けさせる。
- 生徒の学習習慣の実態把握や的確なアドバイス、個別指導の時間を充実させる。

3 成果（○）と課題（●）

- 保護者へのリサーチでは、学年が進むにつれ、本校が意図的・計画的に設定した人間関係を構築する取組や、多様な場面で自己表現する機会や場面により“湯川の先生に教えてもらい「わかった」「わかるようになった」等の「成就感」や「自己肯定感」が育まれた。
- 今後、学校は組織的に、生徒一人一人が自分自身の存在感を感じられる授業づくりを行い、さらなる学習意欲を喚起するとともに、中位層から下位層群の生徒の学力向上に直結する取組の工夫改善を図る必要がある。